



## 製品安全データシート

---

危険有害性情報	H226	引火性の液体および蒸気。
	H304	飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。
	H336	眠気あるいは、めまいのおそれ。
注意書き		
安全対策	P210	熱 / 火花 / 裸火 / 高温のもののような着火源から遠ざけること。 — 禁煙。
	P233	容器を密閉しておくこと。
	P240	容器を接地すること / アースをとること。
	P241	防爆型の電気機器 / 換気装置 / 照明機器を使用すること。
	P242	火花を発生させない工具を使用すること。
	P243	静電気放電に対する予防措置を講ずること。
	P261	ミスト／蒸気を吸入しないこと。
	P271	屋外あるいは、換気のよい場所でのみ使用すること。
	P280	保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。
	応急措置	P301 + P310
P303 + P361 + P353		皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
P304 + P340		吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P312		気分が悪い時は、医師に連絡すること。
P331		無理に吐かせないこと。
P370 + P378		火災の場合：消火には、乾燥砂、粉末消火剤（ドライケミカル）、または耐アルコール性フォームを使用する。
保管	P403 + P235	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
	P405	施錠して保管すること。
廃棄	P501	廃棄する場合は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者と契約し、廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）および関連法規・法令を遵守し適正に処理する。

## 製品安全データシート

特定の危険有害性 (重要な特徴及び想定される非常事態の概要)

特になし

### 4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のところへ移動させ、安静を保つ。 呼吸が弱かったり止まっている場合、衣類をゆるめ気道を確保した上で人工呼吸を行なう。 直ちに医療処置をうける手配をする。
皮膚に付着した場合	皮膚に付着した場合、直ちに石鹼および水で洗い流すこと。 汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。必要であれば切断して取り除く。 刺激が続く場合はできるだけ速やかに医師による診断と医療処置を受ける手配をする。
目に入った場合	多量の水で15分以上よく洗浄し、医師の診察を受けること。
飲み込んだ場合	被災者に意識がある場合、水又は牛乳を与えて胃内を薄める。 無理やり吐かせてはいけない。被災者を安静にさせできるだけ速やかに医師による診断と医療処置を受ける手配をする。

### 5. 火災時の措置

消火剤	噴霧水、泡、ドライケミカル、炭酸ガス
消火を行う者の保護	全身保護衣を着用すること。 火災の際には適切な呼吸器を着用する。
特定の消火方法	蒸気を吸入しないために風上に移動する。 火災の現場から製品を退避させるか、蓄熱による(容器内の)圧力上昇を抑えるため容器を水の噴霧により冷却する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項・ 保護具及び緊急時措置	換気を充分にとり、部外者の立ち入りを防ぐこと。 個人用保護具を着用すること。 保護具を着用していない作業員は近づいてはならない。
---------------------------	--

## 製品安全データシート

---

環境に対する注意事項	排水溝、水系あるいは土壌等へ流してはならない。 適切な防護措置により拡散を防ぐこと。
封じ込め及び 浄化方法と機材	回収が終わるまで十分に換気を行い、作業の際には適切な 保護衣を着用する。漏出物は不活性な物質(乾燥砂、土、お がくず、ウエス等)を用いて吸収させ、廃棄用容器に回収する。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

#### 取扱い上の注意

安全取扱注意事項	熱源、スパークおよび火気から遠ざけること。 蒸気の吸入や皮膚、眼及び衣類への接触を避けること。 取扱いの後は手等を十分に洗浄すること。 使用後は常に容器を密閉すること。
注意事項	静電気の帯電への予防対策をとること。

#### 保管

保管場所および 容器の必要条件	納品時の容器で保管する。 涼しい、換気の良い場所で保管する。 適用される法令・法規等に従って保管を行う。
保管状態に関する 追加情報	熱や発火源から遠ざける。

### 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	ドラフトチェンバーあるいは局所排気装置等の使用下で取り扱うこと。 作業場所には緊急時のシャワー設備や洗眼設備を設置すること。
------	---

#### 保護具

呼吸器用保護具	不十分な排気・換気または長時間にわたる暴露には呼吸保護具を用い ること。
手の保護具	保護手袋（耐有機溶剤）。
目の保護具	リスクの程度に応じて眼に対する保護具を着用すること（サイド保 護付き保護眼鏡あるいは保護ゴーグル、必要に応じて保護シールド）。

## 製品安全データシート

皮膚及び身体  
の保護具 皮膚への接触を避けるため適切な保護具を着用する。  
保護服（耐有機溶剤）。

### 9. 物理的及び化学的性質

外観 液体  
色 無色  
臭い マイルドな石油/溶剤臭  
引火点  $\geq 40.0^{\circ}\text{C}$  ( $104^{\circ}\text{F}$ ) [ASTM D-56]  
溶解性  
水に対する溶解性 無視できる

### 10. 安定性及び反応性

危険有害反応性 予期される通常の保管及び条件において安定と考えられる。

避けるべき条件 加熱、スパーク、裸火、及びその他の発火源は避ける。

混触危険物質 強塩基。

危険有害性の  
ある分解生成物 常温では分解、重合は起こらない。

### 11. 有害性情報

#### 製品情報

#### 急性毒性

経口 LD50: >15000 mg/kg  
経皮 LD50: >3160 mg/kg  
吸入 中枢神経に影響を及ぼす恐れがある。

#### 組成情報

ナフサ（石油類、水素化処理 重質）

#### 急性毒性

経口 LD50: >15000 mg/kg  
経皮 LD50: >3160 mg/kg  
吸入 中枢神経に影響を及ぼす恐れがある。

### 12. 環境影響情報

#### 製品情報

#### 環境影響情報

生態系に関する追加情報： 知見なし

## 製品安全データシート

---

### 組成情報

ナフサ（石油類、水素化処理 重質）

環境影響情報 VOC に該当

### 13. 廃棄上の注意

#### 廃棄方法

残余廃棄物 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。  
下水、地中、水中への廃棄を行ってはならない。  
焼却する場合は関連法規・法令を遵守する。廃棄する場合は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者と契約し、廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）および関連法規・法令を遵守し適正に処理する。

汚染容器及び包装 空容器を廃棄する場合は、内部に付着した物を完全に除去し、上記の方法に従って廃棄を行う。

### 14. 輸送上の注意

#### IATA

UN number	3295
Description of the goods	炭化水素、液体、N. O. S.
Class	3
Packing group	III
Labels	3
Environmentally hazardous	no

#### IMDG

UN number	3295
Description of the goods	炭化水素、液体、N. O. S.
Class	3
Packing group	III
Labels	3
EmS Number 1	F—E
EmS Number 2	S—D
Marine pollutant	no

## 製品安全データシート

---

### 15. 適用法令

化審法 該当なし

#### 労働安全衛生法

引火性の物 ナフサ（石油類、水素化処理 重質）

有機則 第三種有機溶剤 ナフサ（石油類、水素化処理 重質）

名称を表示すべき危険物及び  
有害物質（法第 57 条の 1） ナフサ（石油類、水素化処理 重質）  
ノナン

名称を通知すべき危険物及び  
有害物質（法第 57 条の 2） ナフサ（石油類、水素化処理 重質）  
ノナン

毒物及び劇物取締法 該当なし

消防法 第四類 引火性液体 第二石油類 危険等級Ⅲ，非水溶性，指定数量，1000L

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR 法）

該当なし

### 16. その他の情報

記載内容は現時点で入手可能な資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。注意事項は通常の取り扱いを対象にしたものであって、特別の取り扱いの場合は用途、用法に適した安全対策を実施のご配慮をお願いいたします。また記載されている内容は情報提供であって保証するものではありません。